

『ちくま評論選』解説

※読解問題の字数目安を示す。読解1 七〇字 読解2 一〇〇字 読解3 一六〇字

6 みえない多文化都市 北田暁大

■凡例

- 1 ●は、本文。①②…は形式段落番号。◆は、設問。
- 2 ▽は、本文の追跡・分析。(解答例だけではなく、ここをこそ、読む。)
- 3 ▼は、読解に関する技法。
- 4 ☆は、記述に関する技法。

■追跡

① ●少し前の朝日新聞に興味深い記事が載っていた。それによると、東京都江戸川区に住むインド人が千人を越え、独自のコミュニケーション・ネットワークを作っているのだという。多くはIT関連の技術者とその家族で、区内の公園などでパーティを開いたりしているようだ。注目すべきは、かれらが◆問1いわゆる「インド人街」を作り出しているわけではない、ということである。海外に滞在するインド人によるエスニック・タウンの形成そのものはべつだん珍しいことでもなんでもない。ニューヨークにもロンドンにも東南アジアにも立派な「インド人街」は存在している。しかし記事によると、どうも江戸川区のインド人たちはそうした分かりやすい(空間的に表現された)エスニック・タウンではなく、「インターネットや携帯電話で結ばれた、困った時にお互いが助け合う新しい『電子上』のインド人街」を作り出しているらしい。表面的には認識することのできないヴァーチャルなエスニック・タウンが形成されつつあるのだ。

◆問1「いわゆる「インド人街」とはどのようなものか。

題意は、江戸川区のインド人たちが作り出している「インターネットや携帯電話で結ばれた、困った時にお互いが助け合う新しい『電子上』のインド人街」＝表面的には認識することのできないヴァーチャルなエスニック・タウン、と、ふつうのエスニック・タウン、の違いを確認せよ、ということだろう。となると、使えるのはここ。「そうした分かりやすい(空間的に表現された)エスニック・タウン」。エスニックは、『現キー』用語。民族の。「エスニシティ」を見よ。

「解答例」「現実の空間に形成されたインド人街。」

② ●もちろん、江戸川のインド人はここ数年で急増したということだから、商店や

レストランを「まだ」作れていないだけのことかもしれない。時間がたてば、新大久保や上野のリアリティ・タウンのようなエスニックな風景が生まれてくる可能性もある。だが、たとえそうであっても、とりあえず今のところ空間的な表現なしにエスニック・タウンが存立しているという事実には十分な注意を払っておきたい。江戸川の事例は、現在の技術環境において、エスニックなコミュニケーション・ネットワークが、都市の物理的空間のあり方とは独立に形成されうる、ということを指し示しているのではないだろうか。実際、ほかのエスニック・タウンにおいても、物理的空間への依存度はじよじよに下がってきているように思われる。

▽問題提起。エスニックなコミュニケーション・ネットワークが、現実の物理的空間から、ネットなどのバーチャルな世界に移りつつあるのではないか。

③ ●たとえば、都市社会学者の田嶋淳子は、大久保のインターネットカフェに集う中国人たちのリアリティについて、次のように述べている。

彼らが生活しているのは紛れもない日本という国家の中の東京という都市の大久保だ。しかし、彼らにとって大久保は大連でも、北京でも、上海でもある。ロカルがナショナルを切り裂きながら、リージョナルに広がり、グローバルに繋がる。彼らの生活では、池袋も新宿も大連や北京の隣にある。町は「移住した」のかもしれない。

▽事例による補強。中国人は中国大陸にいる、のではない。あらゆる場所が中国につながる可能性がある。

④ ●もちろん田嶋はマクルーハンのように、電子メディアが世界を一つにする、などということを行っているのではない。大久保という場所が、遠隔地ナショナルリズム(ローカリズム)再生産の象徴的な場としてではなく、自己と故郷とを繋ぐ中継点として機能している、というのがポイントである。移住者たちは、故郷らしさ、故郷の匂いのようなものを求めて大久保にやってくるのではなく、故郷との繋がり、蓋然性を高めるために――アクセスの可能性を相対的に高めるために――大久保へと来訪しているのだ。中継点としての大久保は、だから、必ずしもかつての中華街のような「中国らしい」外見を持っている◆問2必要はない。ネットカフェに集う中国人たちが求めているのは、コミュニケーションなのであって、「中国らしさ」ではないのである。別の言い方をすれば、大久保は象徴的なアウラを持っている必要はなく、相対的に高い「アクセス可能性」を持っていさえすればいいのだ。他によりアクセス可能性の高い場所があるなら、中国人たちはそちらに向かうことになるだろう。現代的なエスニック・タウンは、物理的空間に施される象徴的な意匠によってではなく、中継点としての機能性によって、人々を引き寄せているのである。エスニック・タウンの脱アウラ化によって、人々は物理的・象徴的な空間によって媒介されることなく、直接的に

コミュニケーションに接続することができる。江戸川区の◆問3『電子上』のイン
ド人街」は、情報技術の発達とあいまったこうした〔読1〕エスニック・タウンの脱
アウラ化の「徴候」と考えることができるだろう。

▽「アウラ」は芸術論でよく出てくる。「あの人はオーラがある」などというが、ほ
んものだけがもっている独特の雰囲気のこと。ここでは、インドらしさ、中国らしさ、
「ああ、この故郷の空気、雰囲気よ！」といった感じをいう。ここでいう脱アウラ化
は、ほんとうの故郷が必要なくなってきたという現象をいつている。

◆問2 「必要ない」のはなぜか。

直接には、「ネットカフェに集う中国人たちが求めているのは、コミュニケーション
なのであって、「中国らしさ」ではない」から、が答え。これに少し補って書いて
おく。

〔解答例〕「ネットカフェに集う中国人たちが求めているのは、故郷である中国とつ
ながる可能性を高めることであって、中国らしさそのものではないから。」

◆問3 『電子上』のインド人街」とはどのようなものか。

ぼんやり説明しないで、本文を根拠にしよう。①にこうあった。

「インターネットや携帯電話で結ばれた、困った時にお互いが助け合う新しい『電
子上』のインド人街」

でも、「インターネットや携帯電話で結ばれた、困った時にお互いが助け合うもの」
では、あまりにこねれない。☆文末を考えて、「電子上のインド人街」＝「電子上の
インド人のネットワーク」とすればどうだろう。語順も調整して。

〔解答例〕「困った時にお互いが助け合うための、インターネットや携帯電話で結ば
れた電子上の（インド人の）ネットワーク。」

※「困った時にお互いが助け合うための」というのは、その目的を説明したものだ。
が、傍線3の文脈では、目的というよりも、現実の物理的空間では（ない）「電子上
の（仮想）空間」というネットワークの特質に力点が置かれている。目的の説明の代
わりに、「現実の物理的空間ではない」という対比的説明を使ってもよい。

⑤ ●こうした都市の「脱アウラ化」は、いわゆるエスニック・タウンだけに見出さ
れるものではない。むしろ、「脱アウラ化」は、ケータイによる自己目的的なコミュ
ニケーションに明け暮れる日本の若者たちの街にこそ見出される、といえるだろう。
このことを私はかつて小さな本で、渋谷にそくして論じたことがあるが、そのエッセ
ンスを簡単に述べておくことしよう。
▽脱アウラ化というテーマは、「日本の若者」にこそ当てはまる。議論の本丸へ。

⑥ ●よく知られるように、渋谷という街は、七〇年代以降の西武・PARCOの開
発以降、若者の街の代名詞となっていた。ヨーロッパのイメージを多分に意識して
整備された「公園通り」を皮切りに、様々な都市の舞台装置を設えていくことによ
って、西武・PARCOは渋谷を「ファッションナブル」で「おしゃれな」街へと変貌さ
せた。それはいつてみれば、◆問4都市のデイズニールランド化である。（東京デイズ
ニールランドの開園は八三年のことだが。）都市の歴史的な脈と切り離された「ヨー
ロッパ的」な記号が舞台装置のなかに埋め込まれ、来訪者はそうした舞台を遊歩するこ
とによって「渋谷的なもの」を受容し、また自ら「渋谷らしい」人を演じるこ
とによって「渋谷的なもの」を再生産することとなる。
▽「デイズニールランド」については、吉見俊哉の文章で論じられていた。「デイズニ
ールランド」の各ゾーンはそれぞれ別の映画の世界であり、人々はその中で現実とは区
別された世界の登場人物を演じる。ここでいわれていることも通じている。

◆問4 「都市のデイズニールランド化」とはどのようなことか。

☆なんやそのままやか式。「都市がデイズニールランドのような場所となること。」

「デイズニールランドのような場所」とはどのような場所か。「都市の歴史的な脈と
切り離された「ヨーロッパ的」な記号が舞台装置のなかに埋め込まれ」を使って、☆
構文を変えると、「現実の歴史的な脈と切り離された、別の世界の記号が埋め込まれ
た舞台装置のような場所」となる。

〔解答例〕「都市が現実の歴史的な脈と切り離された、別の世界の記号が埋め込まれ
た舞台装置のような場所となること。」

⑦ ●七〇年代の渋谷は「空間と意味（記号）」との対応関係を前提とした都市構成の
原理」をきわめて明確に体现した場であったということが出来るだろう。こうした渋
谷的な都市構成のあり方は、八〇年代都市開発の一つの型として継承されていくこと
となった。

▽ある空間に、意図的に何か別の意味＝記号を埋め込むことによって、「どこそこら
しさ」（アウラ）を新たに生みだしていく都市開発のやり方である。

⑧ ●しかしおそらくは〔読2〕九〇年代の半ば頃から渋谷のあり方は変わってくる。
たとえば、『アクロス』の渋谷通行量調査をみると、八〇年代末ごろまで他の地域に
対する優位を誇っていたPARCO境界は、九〇年代以降次第にプレゼンスを低下さ
せ、二〇〇〇年頃には昼夜ともに調査対象の五エリア中五位と低空飛行体勢に入っ
ている。代わって存在感を増してきたのが、センター街やホテル街（ランプリング
ストリート）の入り口に当たる東急百貨店本店付近である。これらの「新興地域」は、
PARCO境界のように精緻に「舞台」として仕立て上げられたとは言いがたく、む

「溜まり場」(もしくは溜まり場への通過点)のようなものとして発達してきた地域である。渋谷の中心点は、PARCOに代表される記号的に構成された舞台ではなく、舞台性を欠如させた「溜まり場」へと移行した、ということができよう。また『アクロス』のアンケート調査(二〇〇〇年)では、「あなたにとって渋谷の魅力は何ですか。」という質問に対して、「欲しいものがある。」「新しいものがある。」「情報が多い。」「とりあえず何でも揃う。」「といった機能的な回答が多く寄せられ、「街自体が楽しい。」「という渋谷のイメージ性に関する回答は少なかつた。いまや人々は、渋谷にアウラ(舞台性)を求めてはいない(脱アウラ化)。かれらは情報・商品・コミュニケーションの契機が多く集まる相対的に便利な情報アーカイヴのよなものとして渋谷をみているのではなからうか、そしてその背景には自己目的的コミュニケーションを駆動させる情報技術の普及があるのではないか。——これが拙著で提示した「仮説」であった。

▽渋谷の事例に見られる変化。「記号的に構成された舞台」↓「舞台性のない溜まり場」が好まれるようになった。なぜか。情報へのアクセスの便利さが求められているから。

⑨ ● エスニック・タウンの「脱アウラ化」は、こうした盛り場の◆問5 現代的変容を指し示す一つの事例といえるだろう。情報技術の発達、コミュニケーションとコミュニケーションの空間的舞臺との乖離を生み出し、物理的空間と意味との対応関係が崩壊する。かつてであれば、エスニック・タウンは、「祖国らしさ」を象徴的に再現するために物理的空間を演出する必要があった。しかし、いまや人々が求めるのは「情報アーカイヴ」としての機能性にすぎない。象徴的な意味を生み出すために、「○タウン」を空間的に表現する必要はないのである。外面的に韓国らしくないコリアン・タウン、中国らしくないチャイナ・タウンというものも、十分にありうる。その意味で、冒頭で紹介した「電子上」のインド人街は、都市の情報アーカイヴ化の趨勢を純粹な形で表現したものであると見ていい。もちろん、いかに舞台性、アウラを喪失しようとも若者に対する渋谷の求心性が残っているように、「○らしい」意匠を施された都市空間は残り続けるだろう。しかし、今後のエスニック・タウンは必ずしも分かりやすい外面的な特徴を持たなくなる可能性もある。「みえない多文化都市」が生成しつつあるかもしれないのだ。

▽ここまでのまとめ。

◆問5 「現代的変容」とはどのようなものか。
渋谷の例に沿って書く。☆傍線部延長十そのままやんか。盛り場が現代的に変容したということ。

「解答例」 「盛り場が、記号的に構成された舞台のような場所から、舞台性のない便

利な情報アーカイヴのような場に変わってきたこと。」

⑩ ● 問題は仮にそうした不可視の多文化都市化が進展した場合、私たちがいかんにかかれらと接触することができるのか、ということである。先に引用した部分に続けて田嶋は次のように述べている。「生活空間は接している人びとや、含まれているネットワークの中にある。ネットワークの繋がらない人や空間は存在していないに等しい。そして、彼ら(ネットカフェに集う中国人たち)にとつての現実は一九八〇年代のニューカマーズたちがそうであったように、日本社会との限られた接点の中で展開する。」「みえない多文化都市」がはたして、住み分け方式の多文化主義に帰着するのか、それとも様々な文化が緊張感を伴いつつ折衝しあう多文化主義を生み出すのか——。【読3】『電子上』のインド人街」の事例は、結構重い問いを私たちに突きつけているように思う。

▽事例の分析から、課題を提示するという型の論である。提示されている二つの「多文化状態」は、1 接触の少ない住み分け分離型、2 接触しあうコミュニケーション型である。ここに示されていないのは、融合型であるが、そうなるともはや多文化主義とはいえない。

■読解問題1 「エスニック・タウンの脱アウラ化」とはどのようなことか、説明しなさい。七〇字。

典型的な☆何やそのままやんか型。「エスニック・タウンが脱アウラ化すること。」↓「エスニック・タウンがアウラのない場所になること。」↓「エスニック・タウンが、物理的空間に施される象徴的な意匠を失い、中継点としての機能性だけが求められる場所になること。」文中の語句で、ここまでは、スツともってこれるだろう。七〇字とか「わかりやすく」という指定なら、「物理的空間に施される象徴的な意匠」をいいたえたい。また、「アウラのない場所になる」のほうを文末にもってきたい。「解答例」 「エスニック・タウンが、情報の中継点としての機能性だけが求められる場所になり、現実の固有の空間が醸し出す、その民族らしさといった象徴性を失うこと。(七〇字)」

■読解問題2 「九〇年代の半ば頃から渋谷のあり方は変わってくる」とはどのようなことか、説明しなさい。(二〇〇字)

「渋谷のあり方」といわれているが、それが表しているのは、都市の人々のコミュニケーションのあり方、である。渋谷は、⑨にあるように「コミュニケーションとコミュニケーションのための空間的舞臺」の関係が変化したこと事例となっている。解答は、「都市の人々のコミュニケーションのあり方が、こう変化したということ。」というように主語を立てたい。

「PARCOに代表される記号的に構成された舞台」「街自体が楽しい」といった箇所を利用して、以前のあり方を「記号的に構成された舞台の中で他者に混じってその街自体を楽しむ、その街らしさを演じる」などと表現してみる。また、変化後は、「舞台性を欠如させた溜まり場」「情報が多いといった機能性」「自己目的のコミュニケーションを駆動させる情報技術の普及」といった箇所を利用して表現を考える。

【解答例】「人々のコミュニケーションのあり方が、記号的に構成された空間で他者に混じってその街自体を楽しむことから、自己目的のコミュニケーションを可能にするため、情報が多といった機能性の重視に変化したということ。(100字)」

■読解問題3 「『電子上』のインド人街」の事例は、結構重い問いを私たちに突きつけているように思う」とはどのようなことか、説明しなさい。(160字)

☆切り身。「電子上のインド人街の事例」とは何を意味するか。「重い問い」とは何か。この二つに答える。

⑨のまとめを利用。「電子上」のインド人街は、都市の情報アーカイヴ化の趨勢を純粹な形で表現したもの。「今後のエスニック・タウンは分かりやすい外面的な特徴を持たなくなる」「みえない多文化都市」が生成しつつある」。これらを使えば次のようにまとめられる。

「電子上のインド人街の事例は、都市の情報アーカイヴ化の趨勢を背景に、今後エスニック・タウンが分かりやすい外面的な特徴を持たなくなり、「みえない多文化都市」が生成していく可能性を示している。」

「重い問い」の本身は、⑩「問題は仮にそうした不可視の多文化都市化が進展した場合、私たちがいかにしてかれらと接触することができるのか、ということ」にズバリ示されている。

【解答例】「電子上のインド人街の事例は、都市の情報アーカイヴ化の趨勢を背景に、今後エスニック・タウンが分かりやすい外面的な特徴を持たなくなり、「みえない多文化都市」が生成していく可能性を示している。そうした傾向が進展した場合、私たちがいかにしてかれらと接触することができるのか、という重要な問題が生じる、ということ。(152字)」

■論述への挑戦

問。筆者は、外国人や東京の事例を挙げて、コミュニケーションのあり方の変化を予測しているが、諸君の経験や実感から、これらの分析の妥当性を論ぜよ。八百字以内。